

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野 めぐみ

21

第六幕 第1場

1522年3月25日

マンレサへ

登場人物： 巡礼者 イニゴ・デ・ロヨラ
馬上の男
イニェス
フランシスカ
カルメン
カタリナ

【語り】モンセラット聖堂の聖母子像の前で、夜を徹して祈り明かしたイニゴは、
神のお告げの祝日が明け初める頃、寝静まっている町を後にした。

イニゴ： 神に余すことなくこの身を捧げ、いよいよ新たな生活への旅立ちだ。

少し眠いが心は今日の天気のように清々しい。

さあ、人目につかないように出発しよう。

【黒い天使の合唱】

♪イニゴよイニゴ巡礼者 その格好は何じゃいな？
姫君たちがもし見たら ゲラゲラ笑いが 止まるまい

イニゴ： バルセロナへ行く真直ぐな道は人通りが多く、知り合いに出会うかも知れない

こっちの細い道を行こう。あゝ、山の端が白んで来た。もう直ぐ日の出だ。

(馬のひづめの音が聞こえ、イニゴの背後で急に止まる。)

馬上の男：一寸お聞きしたいことがあるんですが…。

イニゴ： 何でしょうか？

馬上の男： (馬を下りながら)モンセラットの一人の乞食が、この着物をもらったと言っ
てきかないんです。分不相応な着物を盗んだに違いないんですが、
いくら脅しても白状しないんです。

イニゴ： それは確かに私が上げたものです！間違いありません。

何だって無実な人を疑い、手荒に扱うんですか？

馬上の男： だってあいつがこんなに立派な服を持っている訳がないじゃないですか。
てっきり盗んだと思って、持ち主を探していたんですよ。

イニゴ： 可哀想に。私のせいで辛い目に合わせてしまった…。

(イニゴの目に涙が浮かんでくる。)

馬上の男： なんでもまた あの貴族の服をやる気になったんですか？

あなたは立派な家柄の人なんでしょう？

イニゴ： しっ！ そんなに大きな声を出さないでください。

人々がこっちをみてるじゃありませんか。

私は大したことをしているのではないんです。そっとしておいてください。

あの人にこの服を返し、もう決していじめたりしないでください。

馬上の男： その通りにしますよ。持ち主だったあなたがそう言うのですから。

お手間を取らせました。

【黒い天使の合唱】

♪イニゴよイニゴひとり良がり おまえのせいであの乞食
ヒデー目にあつたんだぜ 自己満足もほどほどに

【白い天使の合唱】

♪あゝイニゴ な気づかいそ
思いやりと 善意の心
通じずに 裏目に出ること
人の世に あることを知れ
めげずして 親切尽くせ

【語り】かくにイニゴはバルセロナへの真直な道を行かず、人道りの少ない
マンレサに通じる道を歩いて行った。午後の日が傾くころ。

イニゴ： このあたりで今夜は泊まろう。この数日の霊的体験やモンセラットで頂いた
恵みをこのノートに記しておきたい。(すれちがった婦人の一人に)
今日は、巡礼の旅をしているんですがどこか宿を貸してくれるところがあるで
しょうか？

イニェス： 泊るところ？そうですねー。…あゝ、マンレサの慈善院なら巡礼の方を
ただで泊めてくれると思います。

イニゴ： 有難う。行ってみます。

カタリナ： イニェス、あの人誰？へんな格好してるわねー！

フランシスカ： でも、言葉づかいなど丁寧だったワ。

イニェス： えゝ、今巡礼中なんですから。何か考えることがあるんでしょうね。
外見に似合わずとても優雅な方でしたよ。

カルメン： モンセラットで評判の人かしら？
なんでも、持ち物をみな施したり、修道院に寄付したり…。
立派な剣やカブトなど何デュカットにもなるそうよ。

一同： へえー。気前がいいのね。よほどの大金持ちなのね。

イニェス： しばらくマンレサに泊まれるようなら、一度皆で訪ねてみない。

一同： そだねー。

【白い天使の合唱】

♪あゝイニゴ かつて汝は 賞賛と人目を気にし
身を飾り 武芸を磨き 騎士たるを 誇りしものを
キリストの騎士となりし今 持ち物をみな施して
みすばらしき ^{ころも}衣身につけ ひたぶるに 祈りつ歩む

【黒い天使の合唱】

♪イニゴよイニゴ 気がふれた？ 着物だけ替え 中身はどうだ
巡礼者だと こりやおかしい いつまで続くか 試してやろう